

名古屋大学環境学研究科 10 課題「46 億年の歴史」主催 『気候適応の日本史』を聞く・読む・語る座談会

日時：2022 年 3 月 29 日（火）10:00-12:00

場所：オンライン

企画趣旨

(1) 環境学研究科 10 課題

名古屋大学環境学研究科では 2021 年度より地球規模課題として 10 課題を選定し、取り組みを開始しました。それぞれの課題では、異なった専攻の教員のチームが世話人となって、シンポジウムなどの企画をしています。環境学研究科の扱う環境や防災に関わる課題は、単一の分野の知見では解決できず、文理にまたがる広い知見を必要とするからです。またこの取り組みを通じ、個別分野の研究が課題解決にどのように関与しているかを明らかにし、さらには新たな研究分野の開拓にもつながることが期待できます。

(2) 「46 億年の歴史」

10 課題の一つ「46 億年の歴史」は、地球という惑星の歴史とその上に営みを始めた人間の歴史の両方を認識しながら、地球 46 億年の歴史に依拠した事象について、地球惑星科学から人文科学までの複眼的な視点をもって数億年単位から数年単位までの時間軸を縦横無尽にあてはめながら読み解き、評価することにより、環境学への「新たな価値」の創造を図り、そこに到達するまでの過程自体を教育に還元させていくことを目指すものです。

(3) 本企画の趣旨

今回の企画「『気候適応の日本史』を聞く・読む・語る座談会」は、環境学研究科教員の中塚武教授が著した『気候適応の日本史—人新世を乗り越える視点』（吉川弘文館、2022 年 3 月）を題材に次の 5 点を考えていきます。

1 点目は、過去に生じた事象を対象にした研究成果を現代に生じている課題の解決に役立てることです。これは、歴史研究が果たすべき役割として一般的によく語られることですが、現在、世界が直面している気候・環境変動に対して、何をどのようにしていけばよいかを考えていきます。

2 点目は、時代区分を越えた通史の語り方です。時代という概念は後世の人々が過去のことを語るのに用いられるものですが、区切られた特定の時代を越えて、人間の歴史の中での長い時間帯を通史として語る方法を考えてみたいと思います。

3 点目は、文献と遺構やモノを併用した研究手法の有効性を考えることです。過去に生じた事象をどのように復元（復原）するか、その手法を考えていきたいと思っています。

4点目は、歴史研究における新たな視点の設定についてです。同書が「弥生時代以来の日本の歴史の全体を気候変動に対する人間社会の適応という新たな視点からとらえなおす、日本で初めて、恐らく世界で初めての通史」と位置付けているとおり、新たな視点でどのように設定していくかを考えます。

5点目は、明らかになった事実からおこなう歴史上の事象に対する評価です。特に人間の活動に対して、どのような評価をおこない、それを基に1点目で指摘した現代に生じている課題の解決に役立てることを考えたいと思います。

座談会では、これらについて、著者の思いを聞きながら、同時に他分野の方による同書の読み込み、そして、それらを踏まえた意見交換によって、皆さんで考えていきたいと思えます。

そして、これら5点を考えることで、現在生じている地球規模課題、時間スケールが異なる地球の歴史と人間の歴史の三者の関係を読み解き、地球規模課題の解決に向けた知見を少しでも得ていきたいと思えます。

座談会プログラム

1. 著者に聞く「気候適応の日本史」【中塚教授】
2. 歴史家が読む「気候適応の日本史」【東大・村 和明准教授】
〔この間に休憩 10分程度〕
3. みんなで語る「気候適応の日本史」
【世話人（道林+西澤+杉谷+丹邊）+著者+歴史家】

申し込み：nszw@nuac.nagoya-u.ac.jp 宛にご所属・ご氏名をお知らせください。

申し込み締切：2022年3月28日（月）17:00

「46億年の歴史」世話人

道林克禎（地球環境科学専攻）

杉谷健一郎（地球環境科学専攻）

西澤泰彦（都市環境学専攻）

丹邊宣彦（社会環境学専攻）